



bousai/bouhan通信

平成28年9月 一の宮小防災リーダー

近年、大震災及び台風・集中豪雨による自然災害、学校内外において不審者による子どもの安全を脅かす事件などが数多く発生しています。そのために、児童生徒が自ら身を守るための能力を身に付けさせる安全教育の充実と児童生徒の生活の場である学校の安全管理体制の充実が求められています。そこで、今年度、文部科学省の指定を受け、モデル校として一の宮小・中学校は防災教育に取り組むことになりました。

その取組の1つとして、代表児童5名が夏休み期間中に防災教育の先進地（宮城県）視察に行きました。その5名を本校の防災リーダーとして任命しました。以下、紹介します。

6年 高橋幸将、木村勝彦

5年 河本長秀、永野恵美、宇藤みなみ

このメンバーで、月1回防災・防犯に関する内容を紹介していきます！裏面には、視察後の感想を一人ずつ掲載していきます。こちらも是非、ご一読ください。



ハイゼックス米って、どんなもの？



夏休みに阿蘇市婦人会の方のご指導のもと、炊き出し訓練を行いました。ハイゼックス米とは、専用の袋に1合の米ときれいな水を入れて炊くものです。強化ポリエチレンでできた袋で、沸騰したお湯の中でも有害物質を出しません。災害時には、水道の水が使えなくなりますね。そんな時、雨水などの汚れた水でもごはんを炊くことができるんです。利点として・・・

- ・ おにぎりと比べ衛生的！・ 持ち運びが簡単！
- ・ 箸が不要で、手が汚れていても食べることが可能
- ・ 保存ができる！（殺菌・密封状態になるため）



うまくできるコツは、できるだけ空気を入れずにゴムで結ぶことです。大きな鍋があれば、一気にたくさん炊くことができます。箸がなくても食べられるので非常時には便利だと思いました。味もふつうにおいしかったです。

（幸将）



ぼくは、宮城県の研修で、震災のおそろしさを学びました。

まず、高屋小学校の荒明校長先生の話聞きました。その中で、一番印象に残っているのは、十日間もお風呂に入れなかったことです。熊本地震では、四日目に自衛隊が来てくれたので、ぼくはやっと入ることができました。とても気持ちよかったのを覚えています。他には、避難所生活での食事の量です。パン一枚の六分の一だけしか配給がなかったと話されていました。ぼくは、一の宮小に避難していて、食事は十分な量をとれていたのびっくりしました。ぼくと同じ小学生の子ども達がどんなにつらいめにあったのだろうと思いました。

次に、雄勝ローズファクトリーガーデンを訪問しました。そこでは、津波のおそろしさを学びました。津波は、海から川へ流れて水の量が増えて、陸へどんどん水が押し寄せてくるということです。津波は来ないと安心してはいけない、いつか来るかもしれないということが分かりました。実際に、ぼくたちも山の方へ向かって、避難経路を歩いてみました。まず、高いところにある神社まで登りました。安心かと思ったら、どんどん水がきて、もっと上の山に登りました。神社から上には通り道などはなく、草をかきわけて急な坂を登りました。想像してみてください。たぶん、とても寒かったことでしょう。すべる坂をしんちように早く登る姿が目にかんできました。

ぼくは津波にあった子ども達の話聞いて、ぼくたちも負けてはいけないと思いました。どんなにつらいことであっても、負けずに自分たちで町の人々にえがおをおくっている姿を映像で見て、一日でも早く元にもどせるように、ぼくも何かできることがあったら、がんばりたいと思いました。

この学習で学んだことをみんなへ伝えて、今後災害にあった時は、一人でも多くの命を救ったり元気を与えたりできるように、今自分ができることをしっかりしたいと思いました。

